

# 崇拝

## 詩聖アッカ・マハーデーヴィーによる詩

広大な空いっぱいに見える太陽の光、

風の動き、

木立や低木やつるにある6色の柔らかな葉や花々——

それらすべては、昼の崇拝です。

月光、星々、火、そして稲光の輝き、

そしてそのような輝くものすべての壮麗さは、夜の崇拝です。

昼も夜も通してあなたを崇拝する中で、私は我を忘れます、

おお、シヴァ神よ、白いジャスミンの花のように魅了する者よ。

翻訳© SYDA Foundation®. 著作権所有。

# アッカ・マハーデーヴィー、カルナータカの詩聖

ポール・ホークウッド

アッカ・マハーデーヴィーは、12 世紀、南インドのカルナータカ州の、シャイヴァの伝統のバクタ——熱烈に神を愛する者——でした。この詩聖は、一般の人々の言語であり、彼女にとって易しい形であるカンナダ語で、シヴァ神への彼女の愛を祝いました。

「姉」を意味するアッカという敬称は、彼女の深い精神性を評価して、高く崇敬されるバサヴァンナ、アッラマ・プラブなども含めたシャイヴァの聖人たちのコミュニティによって、アッカ・マハーデーヴィーに与えられました。事実、アッカ・マハーデーヴィーの詩は、彼女の献身と、神との融合への深い切望を共に表現しています。それらの詩の中で、彼女は崇敬と切望の言葉でシヴァ神に直接語り掛け、自分の小さな自己を神との一体性の境地に委ねることの体験を描写しています。神を夫と見なした彼女は、それから 400 年の後にその一生と陶酔のバジャンをクリシュナ神のためにささげたラージャスターン州の聖人、ミーラーバーイのようでした。

今日に至るまで、カルナータカ州、そしてインド中で、アッカ・マハーデーヴィーの歌は広く歌われています。彼女は、ヴァチャナと呼ばれる自由詩の形で献身の賛歌を書きました。それらの賛歌のうちの約 300 編が残され、彼女のシヴァ神への献身を表明しています。彼女は上の詩の中で書いています。

昼も夜も通してあなたを崇拝する中で、私は我を忘れます、  
おお、シヴァ神よ、白いジャスミンの花のように魅了する者よ。

この、彼女の詩の最後の1節は、簡潔でありながら、熱烈な献身に満ちています。私は詩人として、アッカ・マハーデーヴィーの情熱的な詩に魅了されている自分に気づいています。それは神への彼女の深遠な愛を、直接的かつ技巧的な言葉の両方を用いて伝えるものです。それらは私を、彼女が表現する境地——神は私たち自身の最愛なる者であり、私たちの心とマインドに常に存在しているという境地——へと引き寄せるのです。



© 2021 SYDA Foundation®. 著作権所有。